

# ろくおん通信

発行日：1995年9月15日

## No. 76号

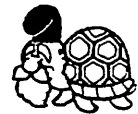
発行：盲人福祉文化センター録音製作係

「音声訳」を考える（第29回）



## 処理を考える（第4回）

### カッコの処理について



前回、カッコの処理の方法として10通りあげました。これはカッコを含む文章を、聞き手により内容が分かるようにさまざまに工夫したものを整理してみたものです。

音声訳者が実際の文章で処理をする場合、“聞き手により内容が正しく伝わる”にはどうしたら良いかを基本に検討しなくてはなりません。「マニュアルにあるからいいのでは」とか「マニュアルにないからダメだ」といったものではありません。

今回は、さまざまな例文をあげてみました。あなたならどんな読み方をするか考えてみて下さい。

### 方法1 カッコをはずして読む

- ソ連臨時人民代議員大会は四日午前十時（日本時間同日午後四時）から続開し、新決議案が起草委員会から配布された。
- この記号もさきに紹介した本木昌造が明治三年（一八七〇年）欧文方式を参考にして作ったものにさかのぼる。
- バリはジャワ島の東端と幅わずか1600メートルの海峡をへだてて、なにか海の生物を思わせる奇怪なかたちにひろがっている面積五六二一平方キロほど（四国の三分の一弱）の島であり、インドネシア共和国の一州でもあるわけだが、そういっただけで何かがわかるようなところでもない。

- もしゴルバチョフが改革に失敗してソビエトがばらばらになってしまうと、巨大なロケットをもったカダフィ（リビアの最高指導者）が何人も出現することになる。世界は大変な危険に晒される。
- それがある時（多分一万年前の氷河期の終わり頃といわれているが）、ひょんなことで（自ら選択したかどうか魚に聞いてみないとわからないが）、「海へ下らんと、ずっと川にいよ」と決めたらしくて、日本の内陸部に棲むことになった。
- 外科医トーマス・スターズルが、つぎのようにのべている。「（一九七〇年代のはじめに）需要が爆発的にのび、いわゆる『フランチャイズ』をめぐって世界的にたいへんな『スターウォーズ』が展開されるようになった。」

## 方法2 ( )をはずして読み、そのあと( )の前の言葉に戻る

### <少し戻る例>

- 聖ルソー（ジョルジュ・サンドはうやうやしくそう呼んだ）などということばを聞いたら、ふたりは何と言っただろう。
- 私が嘘をついて少女を救い、使用人たちが（どんな宝石を私がかかっているか知っている）嘘をつかなかったら、私が宝石を隠したと非難されることになるだろう。

### <多く戻る例>

- これまでのような漠然とした不安状態（それは、誰も彼の病気にたいして何も表現しなかったために生じたのだと思う）よりも余程いい。

## 方法3 カッコ、カッコトジ（またはトジ）と言って読む

- 皇帝と八〇〇万の臣民はドイツ人だが、その倍の数のスラヴ人（チェコ人、スロヴァキア人、ポーランド人、ルテニア人、スロヴェニア人、クロアチア人、セルビア人）、五〇〇万のハンガリー人、五〇〇万のイタリア人、二〇〇万のロマニア人がいる。
- ・・・にあわない可能性は高いが、そのすべてに遭遇しない確率はいやになるほど低い。ここであげた確率を掛け合わせてみただけでも（それぞれの不幸はほかのものとは無関係だとする）、答えはあっというまに非常に小さな数になってしまう。
- アルファ線は大きく、他の物質との相互作用の強い粒子（ヘリウムの原子

核)なので、貫通力は弱く(「飛程が小さい」という)、たとえば空気中では、数センチもあればとまってしまう。

方法4. カッコ・・・カコトジとよみ、その後( )の前の言葉に戻る

- また、「御府内備考」には浅草花川戸町に住む下座見日雇(江戸城の見付その他の番所で、諸大名などの通行を見て氏名を大声で呼びあげ、往来の人々に下座の注意を与える足軽が下座見)の妻が、武家から嫁にきて、貧困の中で、姑や夫を立てて、種々尽くしたことにより表彰されたことが出ているが、あんなことは自分たちにはできないと周囲の者がいったという。
- インカ帝国の王、アタワルパが幽閉されていた部屋(なんとアタワルパは、侵略者ピサロに、自分の身の代金としてその部屋いっぱい黄金を用意したという。今の金額にしておよそ一七兆円。しかもその後アタワルパは殺されている)のあるカハマルカからチョゴルーというアンデスの村に向かって富士山の高さの高原を車で走る。
- 百舌も秋の代表的な鳥ですが、肉食で蛙などを捕らえては木の枝に串刺しにしておいたりする(このことを「百舌の早贄」などといいます)獐猛な鳥は、どうもいにしえの人びとの好みではありませんでした。

方法5 ( )内の言葉が外言葉に掛かるときは、一つ言葉として読む

- 小錦があやうく廃業してしまうのではないかと思われていた、あの運命的な夏(五月)場所八日目の対北尾戦である。
- ごく最近の研究によると同じ型のクォークでも、よく見ると緑色のもの、赤色のもの、青色のものと三色(種類)のクォークのあることがわかってきています。大ざっぱに見ていたときは、この三原色が重なり合って無色になって見えなかったのです。
- ・・・そこから大和の国(今の奈良県)、さらに日本全体が「あきづ(つ)しま」と呼ばれました。

方法6. カッコ内を省略する。

- レモンは戦前から割合に日本人にも親しまれてきた果物で、文学などにも登場していますが、その一つとして、梶井基次郎の『檸檬』(レモン)の

一部をご紹介します。

- 「富嶽崩るといえども、刀水つくといえども、また誰かこれを移易せんや」  
たとえ富士山が崩れ、刀根（利根）川の水がかれてしまうとしても、自分の考えは変えないつもりだという意味である。
- 彼はチョウチョを取りに同行（好）者と山に出かけた。

方法7 左○○カッコ・・・右○○カッコ、  
又は○○カッコ開く・・・○○カッコ閉じと読む。

- {www (a a (b b b) c c c) d d}
- $2 \times \{28 - (4 \times 2)\} = ?$

方法8 カッコ、カツコトジを別の言葉に置き換えて読む

- 前にあげたマーチソン隕石には、各種のアミノ酸のほかに、RNAやDNAに使われているA、T（DNAだけの塩基）、C、G、U（RNAだけの塩基）の五種類の塩基もみつかっています。（一般教養書の場合）
- 九州旅行は、福岡（1泊）――大分――宮崎（1泊）――鹿児島――熊本（1泊）――長崎――佐賀県（1泊）で一周した。
- 『谷間の百合』、『アドルフ』、『ドミニック』〔ウジェーヌ・フロマンタンの小説。1884年〕、『ボヴァリー夫人』、『テレーズ・ラカン』〔エミールゾラの小説。1867年〕、『狭き門』、『スワンの恋』、これがフランス文学の・・・

方法9 カッコの文章を移動する。

- この人々は強い社会党支持ではないから、もちろん、社会党政権など望んでいない。小林助教授の研究室の調査によると、社会党に政権担当能力があると思っている人は、わずか5.5パーセント（自民党は73.3パーセント）しかない。

方法10 カッコ内の文章をとばして読み、音声訳者注で補足してからカッコ内の文章を読む

- 彼はチョウチョを取りに同行（好）者と山に出かけた。

※ 前回練習問題のポイント

どちらも「???'」「♪♪」「##」などの記号の処理をどうするかということです。「???'」はそのままだ「ギモンフ、ギモンフ、ギモンフ」と読んでも前後の文章で使われている意味がわかりそうですが、あとの「♪♪」「##」はそのまま読むと著者の意図とは別に音楽の話に誤解されかねません。この場合「○○もできない。」「○○や××ができたって」などと別の記号に言い換えた方が誤解が少ないでしょう。

**今回の練習問題**

【例文1】

『日本語 根ほり葉ほり』

森本 哲郎

気になる日本語を「独断と偏見」を持って「お茶を濁す」ことなく「根ほり葉ほり」詮索し「べつに」「カンケイナイ」とうそぶく若者の「おしゃれな」言葉に小言を言い、「前向きに善処します」だの「厳粛に受けとめる」だのいう大人の言葉の「けじめ」のなさをも容赦なく暴きだす——「要約すると」本書は、「その辺のところ」が「結構きますよ」「なーんちゃって」。

実は「(カッコ)」のなかの言葉は、本書にとりあげられた言葉たちの一部である。

ふとしたきっかけから、著者が気になりはじめた言葉を追いかける、というスタイルで二十五の各章は成り立っている。語源に遡ってゆくこともあれば、世界の言語との比較に発展することもある。そこから見えてくるものは、日本語というよりも、日本人の姿そのものだ。

たとえば、なぜ「独断と偏見」という言葉が流行ったのか。それは著者に言わせれば「つまり、日本人は『独断』といわれ、『偏見』と攻撃されることを、ひどく恐れているから」なのである。

【例文2】

「勝手社会」と「勝手市場経済」

そこで残るのは信用秩序の維持という大義名分であり、それに名を借りた地価下落阻止論である。

こういう考え方はそれほど金科玉条、錦の御旗となるようなことだろうか。それは思考停止病による思い込みではないのか。頑迷にそれを信じている人を説得するのは容易ではないが、私はここで個人体験を思い出さずにはおれない。

日本の貿易黒字が増えてきて、円切上げが話題になり始めたころ（一九六〇年代末）に日銀、円切上げ（七一年）のときに通産省、円のフロート（こんにちの変動相場制）への移行（七三年）のときに大蔵省をそれぞれ経済記者として担当

していた。

### 【例文3】

小さな黒板があり、梅子先生はその前に立って教える。白墨が珍しく、梅子先生が書く白い字が手品のように思え、鈴江は見とれた。

アイウエオも、あいうえおも、ににんがし ( $2 \times 2 = 4$ )、にさんがろく ( $2 \times 3 = 6$ ) の九九も、梅子先生はすらすらと書いていく。

### 【例文4】

#### ◆氷期を生き延びたエリート

氷期の周期性をもたらす正確な原因が何であれ、本書の物語にとって重要なのは、更新世（現在の完新世は、その一部にすぎない）のあいだに、長い氷期のあとに短い間氷期が訪れるという連続的な変動を、実際に地球が経験するようになった、ということだ。これはかつてなかったことである。非常に長い期間をかけて、気候がゆっくりと規則的に変化していく（この場合、種はその傾向に適応することができる）のでなく、あるいは新しいパターンに突然変化する（そして多くの種が絶滅して、生き残った種が進化して空白になった生態的地位を埋める）のでもなく、その両方の影響が小規模ながら繰り返し作用している時代に、わたしたちは生きているのだ。この時代の気候変動は、厳しい条件がなんども繰り返し襲ってきて、その合間に短い息抜きのとき、つまり気候の安定した時代がはさまれる、というパターンをとっている。

いまのところ、本書の物語の舞台はまだアフリカの中心部だが、ここではこの厳しい条件が氷期ではなく乾期として現れ、森林は縮小し、植物も動物も厳しい生存競争にさらされていた。雨期に相当する間氷期には、木々もその他の植物も一時的に繁茂し、動物の生活も楽になる。このように、進化圧が繰り返し強まったり弱まったりしていたために、狡猾さと適応力の価値が高まり、「賢い」直立猿人が、この変化する世界において成功するチャンスが訪れた。このことが、人類の系統の進化に拍車をかけたのにちがいない。

### 【例文5】

・・・それに聞くとところによると、この企画には本ネタがあって、かって椎名誠氏が某紙でおこなったものをヒントにしたそうである。

何の工夫もなく漠然<sup>ばくぜん</sup>と書いて、それでもって椎名氏の書いたものよりつまらなくなれば（当然つまらなくなるだろう）、アイデアが独創的でない分だけ、まったく何ら取り得のない不細工なものになる。

二通りの読みがあって意味が異なるもの・・・(36)

蝉声	センセイ せみの鳴き声 セミゴエ せみの鳴き声に似た声	直面	チヨクメン 直接に物事に対する事 ヒタメン 能て面を用いず素顔のこと
柴漬	フヅツケ 川などで魚を捕らえる装置、またはその漁法 シハヅツケ 京都特産の漬け物	前方	マエカタ その時より以前、従前旧式な事。初心、未熟 ゼンポウ 前の方。前面の方。
封	フ・フウ とじふさぐこと。 フ 土をもること。	一世	イチセイ・ヒトヨ 一生涯 イチセ (仏)過去現在未来の中の一つ

きれいに録音するために (第17回)

再生音を録音レベルと勘違い



「録音レベルを適切に」ということをこのシリーズでもかなり取り上げていますが、実際にはなかなか“適切な録音レベル”のテープにはお目にかかれませんが、大袈裟なようですが、家庭録音されているテープの半数以上は録音レベルが不適切と思われると思います。つい最近、数人のベテラン音訳者のカセットテープを聞かせていただきましたが、録音レベルがかなり低いものが半数近くありました。ベテランの音訳者でもこんな状況ですので、今回は、なぜ多くの人が録音レベルを低くしてしまうのかその原因を考えてみました。

適切な録音レベルはカセットデッキではピークレベルメーターが常時0に届いている程度で、オープンテープでは、VUメーターの針が-6~-3あたりに常時振れていて、ときどき0に届く程度としています。しかし、こうしたメーターでレベル調整するのではなく、どうも「再生音」を聞いて決めている人が多いのではと思われると思います。つまり、録音ボリュームで調整するのではなく、再生ボリュームを調整することで録音レベルを合わせたつもりになっていると思われることです。録音レベルが低くても再生ボリュームを大きくすると大きく聞こえますか、適切な録音レベルかどうかはあくまでもポーズ状態、あるいは録音した時のメーターの振れ具合を見ながら調整しましょう。録音レベルの低いテープは「シャー」というノイズも大きくなり聞きづらい録音図書になってしまいます。録音レベルにもう少し“神経質”になって欲しいものです。

## 9月の「勉強会」のご案内

講師：恵美三紀子 氏（元全国点字図書館協議会録音委員会委員長）

内容：録音図書とは、音声訳者に求められるものは

日時：1995年9月27日（水）

午後1時30分～3時30分

会場：盲人情報文化センター6階（ボランティアルーム）

費用：無料



### リクエスト図書一覧

以下のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。  
グループの方で引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。

- 『狂信者』（上・下）ロバート・ランドラム著<小説>
- 『仏陀再誕』大川隆法著<宗教>
- 『雷鳴の館』ディーン・R. クーンツ著 <小説>
- 『マインドコントロールの恐怖』スティーヴン・ハッサン著 <心理学>
- 『エホバの証人マインドコントロールの実態』<宗教>
- 『愛のしくみ』大塚ひかり著<随筆>
- 『解剖 生理 上』石川県立盲学校理療科 <三療>
- 『天使の牙』大沢在昌著 <小説>

引き受けて頂いた原本	グループ
『燃える男』 A・Jクィネル著<小説>	えくてもあ
『新編俳句歳時記 春』 森澄雄著 <俳句>	"
『新編俳句歳時記 冬』 森澄雄著 <俳句>	"
『ノーマライゼーション研究』 <社会福祉>	"
『ピカソ霊示集』大川隆法著<宗教>	"
『リプレイ』 ケン・グリムウッド著<小説>	"
『クリスチャンのための諸宗教ハンドブック』	"
『雑草のごとく』 谷口浩美著 <スポーツ>	"
『原説般若心経』高橋信次著<宗教>	みなわ
『ぼっけもん走る』浜畑賢吉著 <文学>	コスモス
『大佛次郎 敗戦日記』大佛次郎著	堺
『灯』7-12月号 松本政高著<俳句>	テンプライブラリーにしのみや